

2012 9 月定例会 一般質問全貌

(前住議員) はい。皆さんこんにちは。

() こんにちは。

(前住議員) 1番前住孝行です。猛暑の夏も一段落しまして何をしてても爽やかな季節となりました。傍聴にお越しくくださったかたがた、インターネット中継での傍聴のかたがたありがとうございます。この夏はオリンピック、パラリンピックがありまして、期間中は寝不足になられたかたも多かったことと思います。トップアスリートのプレーに勇気づけられたり、共感したりと選手の懸命な姿に感動させられました。パラリンピックでは、工夫された種目もたくさんあり、スポーツの持つ役割の大きさを改めて感じた次第です。こうした国際大会を通じて、スポーツの素晴らしさを実感し、爽やかな汗のかける運動をされる人が増え、健康維持につながればと考えております。

旧若桜小学校跡地利用について

それでは、通告させてもらっています3点について質問させていただきます。1つ目です。旧若桜小学校跡地利用についてです。現在、旧若桜小学校は解体に向けて防塵、防護ネットを張られており、着々と事業が進められているところです。昨年度の小学6年生から校舎解体後の跡地利用について提案があったと聞きましたが、その詳細と所見について伺います。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。前住議員の昨年、小学校6年生から提案のあった旧若桜小学校の跡地利用についてのその詳細と所見を伺うということでございますけども、実は、簡単には今年の2月の広報わかさでも出しておるということ、皆さんも見られたと思っておりますけども、昨年、小学校6年生から提案のあった旧若桜小学校の跡地利用についてのその詳細と所見とのごことでございますけども、昨年、12月21日に若桜小学校の6年生が総合的学習の時間に考えられた若桜小学校跡地利用についての提案をいただきました。提案の内容は皆が気軽に使える運動公園を造り、町民に運動する機会を増やすことで町民の健康増進に役立ててほしいとのごことでございまして、若桜町の現状と皆の願いを描いた現実可能な提案であると感心した次第でもございますし、具体的な整備としても誰

もが気軽に利用できる芝生広場やジョギングコース、遊具の整備を分かりやすく絵にしたものといただいております。将来の若桜町を支えてくれる子どもたちの貴重な提案として、私は今のところ受けとっているような次第でございまして、実は私の頭の中と結構一致するところもありますなどお話をさせてもらったようなことでもございます。

(岡本議長)

前任孝行議員。

(前任議員)

はい。答弁の方にもありました、私も町報の方で簡単な記事を読ましていただきまして、僕もいいなというふうに感じさせてもらっていました。そこでさらにという感じの提案をさせてもらおうと思うんですけど、小学生が芝を敷いてということ提案していますけど、そこでさらに会員制のグランドゴルフ場にしてはどうかというふうに思っています。というのもグランドっていうのは中之島公園やゆうゆう広場、若桜学園の校庭とかあるんですけど、中之島に芝がちょっとあったりするんですけど、芝だけっていうようなグランドっていうのはないといってもいい状況です。それで、芝を敷くとなかなか管理っていう方が大変っていうことになるんですけど、なかなかボランティアで管理っていうのもお願いしにくい状況があるようですし、少し芝のコースに変化をつけたような感じで、町内の他の場所ではできないような施設にして、利用者にちょっと負担をしてもらってはどうかというふうに思っています。他のところと違っていけば町外のかたの方からも来てもらったりできるんじゃないかなというふうに思うんですけど、このことについての所見を伺います。

(岡本議長)

答弁を求めます。小林町長。

(小林町長)

はい。芝を敷いて会員制のグランドゴルフ場にしてはどうかという所見でございしますが、確かに本町においては芝生のグランドは限られており、若桜保育所、本年度植栽した氷ノ山、スポーツ広場など芝生化されているところでございます。グランドゴルフのみならず屋外で遊びやスポーツする場合においては転んでも痛くないことや怪我の心配がない天然の芝生は土のグランドよりも楽しめることや子どもの運動能力上にも良いと伺っております。裸足で芝の感触に親しんでいただくことも活用方法の1つと考えられますし、跡地の利用については宿内であり、住民の皆さまの関心も高いと私は思っております。

まずはどのような目的でどのような施設にするのか、また建設経費についてどの程度必要となるのか、また運営方法についても効果的な利用が見込めるよう運営形態をどうする

のかなど、住民のご意見をいただきながら今後しっかりと検討してまいりたいとそのように思っておるところでございます。

(岡本議長)

前任孝行議員。

(前任議員)

はい。本当に私自身が言ったことがすべて叶うと思っていまません、本当にいろんなかたの本当意見を聞いてもらって、1つの案として本当に聞いてもらえばいいと思うんですけど、やっぱりその無料の施設っていうのがこれまでもずっとあったりして、本当町民のかたとしては使いやすいついていうのはあるんですけど、でもなかなかそういった管理っていう部分でどうしても費用がかかってくるわけですし、やっぱり利用者のかたにちょっといい施設にして負担をしていただくようなことを考えていかないとどんどん管理が難しくなってくるのかなというふうな現状があるように思っています。

まだ、突拍子もないこと言うかもしれませんが、さらに定期的な運動をしている人としらない人では医療費に3倍近くの大差が生じていることをある研修会で聞きました。その内容としまして、東北の方のある町だったんですけど、病院がコミュニティの場所になってしまっていて、病室で待つ患者さんの会話の中で、あら、誰々さんがおらんけど具合が悪いのかしらという会話があったそうです。そういった現状があったために、余計に医療費がかかっていたということだそうです。

そこで重要となってくるのがコミュニティ施設になってきます。それで、このグラウンドゴルフ場に併設のコミュニティのスペースというのを設置してはと思います。このことについてはどうでしょう。

(岡本議長)

答弁を求めます。小林町長。

(小林町長)

はい。まだ具体的な何をするかどうかということがございませぬから、直接それに答えることは非常に私も難しい問題だという具合に思っておりますけども、医療費の増加を抑制するためにも、グラウンドゴルフ場を整備する際、コミュニティ施設も併設してはというご意見でございますけども、先程答弁させていただきましたとおり、今後検討することとしておりますが、大きな箱物などは今のところ私は考えておりませぬ。議員ご提案の意見を含め、さまざまな観点から全町的な跡地利用検討会を設置して検討していきたいと考えておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

特にこうして、若桜保育所をまず幼稚園の機能もした保育

所ということになれば、今の表の辺が今のままでいいかどうかという問題もございますし、あるいは子どもたちが、大きな雪が降ったら滑りんこでもできるようなことでも必要かも分かりませんですし、いろんなことが考えられるという具合に思っているところでもございますので、そういう面では本当に皆さんの体づくりができることは非常にいいという具合に思っております。

確かに料金を取るということも非常に大事でございますけども、やっぱり町内の中で高齢者が多いというようなこともあったりいたしますと、誰にでも気軽に使える、それからゴルフの皆さんも、グラウンドゴルフも気軽に使えるというようなことも大事かなということを思っておりますけども、皆さんともまた相談もしながら、いいものを作っていきたいと、本当に私は関心があると皆さん思っておりますので、いいものを作っていきたいという具合に思っておるところでもございます。

(岡本議長)

前住孝行議員。

(前住議員)

はい。やはり箱物になるなというふうに思っていて、なかなかそこではいい答弁ないだろうなというふうに思ったりはしたんですけども、ちょうどあそこは鬼ヶ城の入り口というか、登れる口にもなったりしますので、あそこにちょっと案内所代わりのものになったりとか、他にもいろんな用途を総合したようなものでできたらなというふうに勝手に想像しているものですけど、そういうものができたらなというふうに思って提案させてもらいました。

防災対策について

では、続きまして2つ目の質問に移りたいと思います。防災対策についてです。去年の11月20日に、赤松地区を拠点とした防災訓練が行われました。私も1団隊員として参加させてもらいましたが、自分の立場でもいろいろな課題が見えてきました。それで、かなり実践に向けての想定でなされて、私自身はとても良いことだなというふうに思っています。そこでさまざまな課題も見えてきたのではないのでしょうか。午前中の中尾議員の質問の中に、関係団体とのまとめというか、反省会は実施できていないということでしたが、町長の感じられた範囲でいいと思いますので、実施してみても課題点やその後の対策について伺います。

(岡本議長)

答弁を求めます。小林町長。

(小林町長)

はい。昨年11月20日赤松地区を拠点とした防災訓練を行ったが、課題点とその後の対応策についてということでも、この日の訓練は鳥取県沖マグニチュード7の地震により災害が発生したことを想定し、応急対策を迅速的確に行うことと住民の防災意識の高揚を図ることを目的として実施いたしました。集落で家屋が倒壊、火災も発生、さらには土砂災害の発生が予測されるとして訓練を行ったところでございます。役場内には災害対策本部を設置すると共に、一宮電機シャフト工場駐車場に現地対策本部を設置し、関係機関への出動の要請を行い、防災活動を開始いたしました。議員がお訊ねの課題点についてでございますが、避難誘導、情報収集伝達、炊き出し、被災状況調査、はしご車体験、防災グッズの展示など訓練の内容を振り返ってみましても、課題として位置付けることは特になかったように考えております。

しかしながら、本日中尾議員にも答弁いたしましたとおり、参加されたかたがたからご意見をいただく機会を作ることができませんでしたので、今後はご意見をいただく機会を作りたいと考えております。いずれにいたしましても、自分の安全は自分が守るとというのが防災対策の基本でございます。また、大災害に対してもできる支援は限られております。住民の皆さんが普段からそれぞれの地域の中で人と人とのつながりを大切にお考えいただき、いざというときに皆で助け合うということを忘れないでいただきたいと思っております。また、町としても定期的に拠点を設けて防災の訓練も考えたいとそうように思っておるところでもございます。

(岡本議長)

前任孝行議員。

(前任議員)

はい。本当私自身も1団隊員としたということで参加させてもらって、町長も町報の方に初動体制の構築ということをつかの町報に書かれていて、本当にそのとおりだなんていうふうに思ったところです。それで、いろんな想定をある程度知った上での避難訓練だったんですけど、もし対策本部が一宮電機さんのところにこう設置してしたんですけど、その1団隊員として、そこに本部ができるのかというような情報とかをその関係団体からどういうふうに連絡してくるんだろうなっていうようなこともあったりして、その辺もちょっと重要なことだなんていうふうに思いました。今初動体制というのはやっぱり関係機関との連携と、それで、広報の重要性ということもあると思っております。現地でも今何をしているんだろうなっていうような、想定された流れになっていりましたが、

今何しているんだろうなっていうような状況がちょっと分からない状態もあって、多分ここら辺のことを、今、しておられるんだろうなっていうような感じで参加させてもらってましたので、やっぱりその対策本部からの情報っていうのもまたあったら、僕らもどうしたらよかったのかなっていうのが分かったんじゃないかなっていうふうに感じたところです。

それで、本当にそれからの対応としてもいろいろ中尾議員のときも言われましたけど、されていて、本当にこれからも進めてもらいたいなというふうに思っております。それで、本当に先程もこういった訓練は良いことだっていうように申しましたけど、やっぱり本当に PDCA サイクルでやっぱり何回も何回も繰り返しやって深めていってほしいなというふうに思っているところです。では、2つ目の質問に移りたいと思います。それで、実際に昨年度は台風 12 号によって、糸白見、浅井集落のかたが自主避難をされたようですが、具体的にどこにどのような所持品を持って避難されていたのか、もし把握されていたらお聞きします。

(岡本議長)

答弁を求めます。小林町長。

(小林町長)

はい。昨年度台風 12 号によって自主避難されたかたの避難場所と所持品についてのご質問でございますけども、昨年 9 月 3 日の台風 12 号で県内では南部町で土砂災害が複数発生し、河川の氾濫を想定し、全町民 1 万 2,000 人に対して避難勧告が発令されました。また湯梨浜町では東郷湖の水が溢れ、町民約 2,000 人に対して避難勧告が発令されました。本町では台風 12 号により町道への土砂流出、水田の法面崩壊、林道への土砂流出や路肩法面崩壊、八東川の護岸流出など多くの被害が発生しました。このような状況の他、議員お訊ねの台風による自主避難者があったことも承知いたしております。糸白見では自警団が集合し待機、雨量や河川の状況を見て 5 軒ほどに声をかけておられます。そして、1 名が所持品なしで公民館へ自主避難しておられます。また、浅井では 2 家族で 6 名が所持品なしでドリーミーへ自主避難されたという状況もございました。

(岡本議長)

前住孝行議員。

(前住議員)

はい。やはり私自身もこの若桜町の防災の手引っていうのとレスキューバックっていうのを用意はしているんですけど、やっぱりいざとなったときに、ちょっとそういったものを持って出られるのかなっていうのが本当に心配しております。やっぱり所持品なしで避難されるのかなということ

です。それで、ここで言いたいのは、本当にせっかく良いものを作っているんですけど、この辺のやっぱり周知というものもなかなか難しいのかなというふうに思ったりしていて、できることとしたら、南部町では避難勧告を出されて、それで避難をされたということなんですけど、その避難の何ですかね、命令じゃなしに情報として、第1に避難準備情報、それでその次に避難勧告、それで避難指示という3段階のものがあると思うんですけど、やっぱりどれぐらい降ったら避難しないといけんのかなという、やっぱり町民も分からない部分があったりするのではないかなというふうに思いまして、どれぐらい川の水が増えたら避難準備情報を出してとか、避難勧告だとか、多分何かあるんですよね、本当はね。と思うんですけども、そういったのを広報として何か、難しいかも分かりませんが、やっぱり知らせてもらうことで、今この段階なんだとか、そろそろ避難勧告になるかもしれんなどかっというような判断もできるのではないかなというふうに思ったりしているところです。そのことについて、もし何か所見がありましたら。はい。

(岡本議長)

答弁を求めます。小林町長。

(小林町長)

はい。避難勧告の問題でございまして、実は1分、2分と言わないときに、どんどんどんどん水嵩が増えていくというようなこともございまして、一定のちゃんとした数値はここでこれが過ぎたらということにはしているわけなんでございまして、やはりそういうときには、現場にちゃんといながら、そしてまたこちらの方と連絡を取りながら、避難勧告を早めに出すということが非常に私は大事ではないかと思っています。例えそれがきちんとそれ以上の水が増えなくてもちゃんとやっぱり避難をするということが、今一番大きな問題だと思っています。

実は佐用町なんかの問題でももっと早く避難勧告を出しておれば明るいうちになってくるわけでございまして、そういう面ではやっぱりこれからは地方公共団体としても早く避難勧告を出すということは、これは私は大きな問題だという具合に思っております。それから出るときに、やっぱり防災グッズ若桜町も配っておりますけども、私も枕元の横にちゃんと置いてあるんです。あとは貯金通帳だけ入れればいいという格好にはしているところなんでございまして、そういう訓練はやっぱりちゃんと集落で皆が拠点を設けてやりながら、皆さんこうしてリュクサックを負うて出るとか、というようなこともやっぱり非常に私は普段から大事なこ

とだという具合に思っておるところでございますし、もちろん町内の私の所の役場の中のきちっとした本部体制というのがこれが一番大事だという具合に思っておりまして、実は平成19年の8月22日の屋堂羅、赤松の大きな局部的な雨が降ったわけでございますけども、そのときにも一気に報道から電話が掛かってきます。誰が電話を受けていいんだ、どうしたらいいんだ、こういうことに一番困ったことだと思っておりますので、そういう面でもしっかり私達やっぱり体制を訓練していかないといけんと思っておりますし、第4分団はみんな現場に出ておるし、手薄になるしというようなこともあったりいたしまして、そういう面で、まずはそのときは6時でしたから、これから課長会をするというようなことで、まだ課長の皆さん居ったんですけど、これが平日でなしに祝日だったら、どんなことになるかなあということも思っておりますし、何人1時間以内に来られるだろうかというようなこともございますから、そういう訓練もこれからはやっていかないといけんあという具合に思っております。本当にすごく重大に私達も感じて仕事をしなくてはいけないなあと思っております。

(岡本議長)

前住孝行議員。

(前住議員)

はい。3つ目の質問に移りたいと思います。若桜町では洪水、土砂災害、大雪などが想定される災害になるのではないかなあというふうに思います。第9次総合計画には具体的なことも記載してあるんですけど、今後の展開についての所見を伺います。

(岡本議長)

答弁を求めます。小林町長。

(小林町長)

はい。洪水、土砂災害、大雪など、若桜で想定される災害の今後の展開についての所見を伺うとのご質問でございますけども、各種災害の中でも人的・物的にも多くの災害、損害を生じているのが水害や土砂災害です。これらを未然に防ぐためには、本町の特徴など良く把握することが大切でございます。まず、水害対策については本町の地形は山間地で平野が少なく、また森林の荒廃などにより土地の保水力が弱まるなど、以前に比べて水害の発生する可能性が強まっています。このため、引き続き河川改良、治山、治水、森林整備など取り組むことが大切であると考えております。この点からも本町が力を入れている林道、作業道の整備など森林の手入れをする事業も広くは災害対策と言えるかもしれません。

次に、土砂災害対策については、地滑り対策事業などを実施して災害を未然に防ぐことも大切であり、国や県に対して

要請し、崩壊防止向上を推進することが大切だと考えております。そして雪害対策については、国道、県道、町道の除雪はそれぞれの除雪計画に基づき除雪を行っておりますが、もし積雪、雪崩などにより交通が途絶した地域が発生すれば食料、衣料品不足、救急患者の発生などによる不安が生じます。そうした不安を取除き、住民生活の安定に努めることが大切であると考えておるところでございます。

(岡本議長)

前住孝行議員。

(前住議員)

はい。本当にそれぞれの災害についての対策について、展開について話してもらいました。本当に今、自治会長をさせてもらってしまして、本当に自治会でもいろいろ考えていかないといけないなあというふうに思ったりしてて、本当にその自助、共助ということで、公助になるまでは3日かかるというふうな報道を聞いてしまして、自治会でも3日間生き延びるといふか、皆を安全に過ごせるようにさせるためにはと思ったりしていて、何かできることといたらその備蓄品みたいなのを、水とかそんなもんでも用意をしないといけんのかなあと思ったりもしているところで、まだ思うだけで何もできていないですけど、そういうふうなことを考えているところです。でも、本当に安全、安心の若桜町というのを自慢できるような取組みを期待したいと思います。

広報の発展について

では、最後に大きい3番目の広報の発展について質問をさせていただきます。若桜町のホームページで広報をされていきますけど、これの毎月どれくらいのアクセス数なのかというのをちょっとお訊ねしたいと思います。

(岡本議長)

答弁を求めます。小林町長。

(小林町長)

はい。ホームページのアクセス数についてのご質問でございますけども、平成21年度～23年度までの状況でございますが、少ない月で約10万件、多い月で約18万件のアクセス数でございました。また、年間で見ますと平成21年度が約159万4,000件、平成22年度は170万8,000件、平成23年度は152万7,000件のアクセス数でございました。平成23年度の実績を見ましても前年度に比べて減少しております。今後ホームページの内容等もリニューアルに向けて検討をしたいと思っているような次第でございます。

(岡本議長)

前住孝行議員。

(前住議員)

はい。そこでまた提案になるんですけど、佐賀県の武雄市

を初めとしまして、身近では鳥取県の広報課や米子市、岩美町が広報の1つの手段としてソーシャルネットワーキングサービス、SNSと言うんですけど、を利用されています。ちなみになんだいやというふうに思われると思いますので、その代表的なものとしたしまして、日本最多の会員数を持つのがミクシーというもの。携帯とかのモバイル向けのグリーとか、モバゲーで世界最多の会員数を持つフェイスブックなどがこのことになります。この武雄市では5万アクセスしかなかった公式ホームページが1,000万アクセスまで増えたという成果も出て来ているそうです。若桜町がどんな動きをしているのか、タイムリーに情報として出せるツールの1つとして導入してはと思いますが、所見を伺います。

(岡本議長)

答弁を求めます。小林町長。

(小林町長)

はい。若桜町はどんな動きをしているのかタイムリーに情報として出せるツールの1つとしてソーシャルネットワーキングサービスを導入してはどうかとのご質問でございますけども、議員の仰せのとおり、近年自治体でもさまざまなやり方でソーシャルネットワーキングサービスの活用が始まっております。ソーシャルネットワーキングサービスについては情報の共有とインターネット上で人を繋げる媒体として、近年利用者が増えているとのことでございます。自治体が導入するとなればやはりメリット・デメリットをよく検討することが必要でございますし、町民の皆様への情報提供のスピード化を図り、行政の透明性や説明責任を高めること、双方向でコミュニケーションを取ることと、一定のメリットがあると聞いておりますが、一方、個人情報保護対策、セキュリティ対策などが充分できるのか、また、取組みにかかる労力、時間、予算などに併せて検討をする必要がございます。今後本町においてSNSの取組みの必要性や諸課題についてもよく検討をしてまいりたいと、そのように思っているところでもございます。

(岡本議長)

前住孝行議員。

(前住議員)

はい。デメリットというか、という部分で鳥取県の方でもツイッターでトラブルが起こっていて、ツイッターとかでは偽名でつぶやけるので、そういったことが起こるのではないかなあというふうに思っていました、ちょうど私が始めたのがフェイスブックでして、フェイスブックは実名で登録してやり取りするんで、いざ書き込むときにも、やっぱり責任というか、かかってくるので、無責任の書き込みというのはなくなるんじゃないかなというふうに思います。それで、6月

の下旬から始めたんですけど、いろいろな人を通じて岩美町さんとかもありましたけど、この間、智頭の寺谷町長とかもある人からこうコメントが見えて、しとんさるんだなというふうに思ったりしましたので、ぜひ知っていただけたらというふうに思います。

でも、本当にホームページはそのまま残さないといけないと思うんですけど、こういうことを更新しましたよというような情報を、こういったフェイスブックで流してもらえれば、本当どんなんだろうなというふうにこう行きやすいので、何時、ホームページ更新されたのかというのが今、分からない状況なので、私も議員なのになんまりアクセスしてないのでちょっと反省しているんですけど、そういった情報をタイムリーに、だいたい毎日どんなことが、友だちになった人の情報が出てくるので、そういったことをしていただければ、例えば、今、若桜町部落差別撤廃人権擁護に関する総合計画ができたんだとか、防災計画の見直しができたなとかいうようなことが分かれば、ホームページにこうアクセスしてどんなものなのかというのが分かりやすいので、検討されると言われましたので検討の方をしていただけたらなというふうに思います。では、これで質問を終わりたいと思います。

ありがとうございました。